

第33回 KTSM 実技セミナーin 神戸 基礎コース 開催報告

【開催目的】

「口から食べる」支援をするために必要となる、機能的・器質的口腔ケア、早期期以降摂取に繋げるベッドサイドスクリーニング評価、安全で効率的な食事介助の基本的事項について、知識と技術を学び習得をする。

【開催日時】

平成28年8月20日（土曜日） 13時～17時

【開催場所】

神戸医師会看護専門学校

【プログラム】

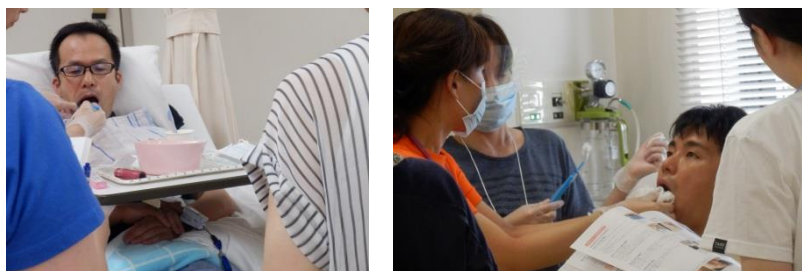
1. 全体講義：口から食べることをサポートするための包括的スキル
～KT バランスチャートの活用と支援～
2. 演習①：経口摂取に繋げる口腔ケア
3. 演習②：早期経口摂取開始に向けた、ベッドサイドスクリーニング評価
4. 演習③：安全で効率的な食事介助方法
ベッド上での食事時の基本姿勢を中心に
5. 演習④：車椅子での食事姿勢、自立を目指した食事介助技術
6. まとめ・質疑応答

【アドバイザー】

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美 (神奈川)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会理事長	看護師 (日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士)
竹市 美加 (兵庫)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	看護師 (摂食嚥下障害看護認定看護師)
児玉 秀樹 (兵庫)	ナチュラルスマイル西宮北口歯科	歯科医師 (KTSM 実技認定者)
井上 久美子 (兵庫)	ナチュラルスマイル西宮北口歯科	管理栄養士 (KTSM 実技認定者)
山廣 芳枝 (大阪)	大阪府済生会中津病院	看護師 (摂食嚥下障害看護認定看護師)
宮田 栄里子 (和歌山)	紀南病院	看護師 (摂食嚥下障害看護認定看護師)
近藤 奈美 (愛知)	みなと医療生活協同組合協立総合病院	看護師 (摂食嚥下障害看護認定看護師)
砂山 明子 (東京)	東京都立駒込病院	看護師 (摂食嚥下障害看護認定看護師)
佐藤 さと子 (宮城)	気仙沼市立病院	看護師 (KTSM 実技認定者)

【セミナー場面】

演習①経口摂取に繋がる口腔ケア



口腔ケアの実際を行い、洗浄方法について吸引付きくるリーナを使用し実践。機能的口腔ケアについても、実践を行い説明。患者体験を通し、体のズレや背面の圧迫による苦痛を体感し、適切なポジショニングの必要性を実感して頂いた。

演習②早期経口摂取に向けたベッドサイドスクリーニング評価



MWST・FT の実際を実践。頸部聴診法を併用し、スクリーニング手技の習得を目指した。注水場所や閉口を促すからの注水・スプーンの操作方法など、細かい注意点を説明し実践。

演習③安全で効率的な食事介助方法



全介助では、視覚情報入力により食物認知を高める、適切なスプーン操作、対象が食べやすいスピードやタイミングでの介助を実践。肘やテーブルの高さを調整し、手を包みこむようにアシストを行うことで、セルフケア向上に繋がる介助を実践。

演習④車椅子での食事介助姿勢、自立を目指した食事介助技



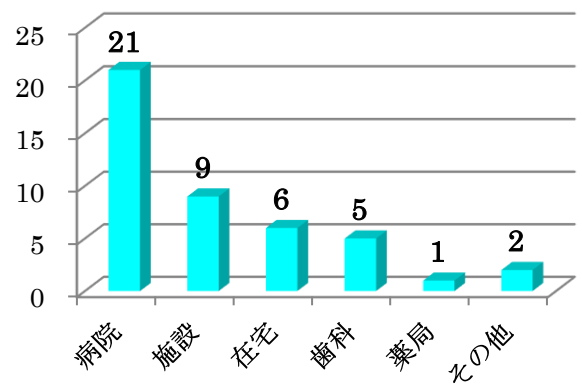
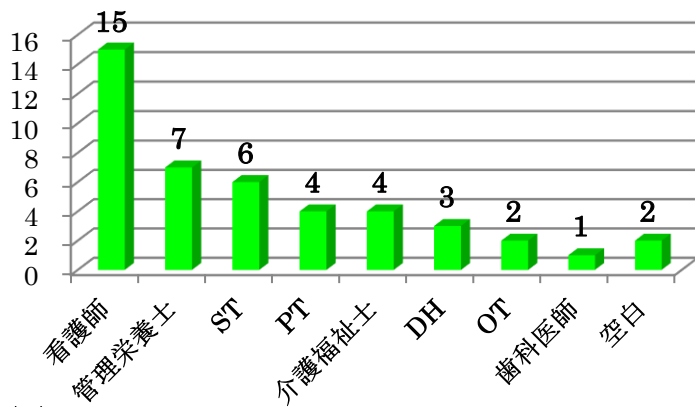
シーティングや不良姿勢を体験し、安定した姿勢調整により、飲み込みにくさの違いを体験して頂いた。対象の良好な機能を見つけ、出来ないところをアシストし、セルフケア拡大へのステップアップ介助を実践。

【アンケート結果】

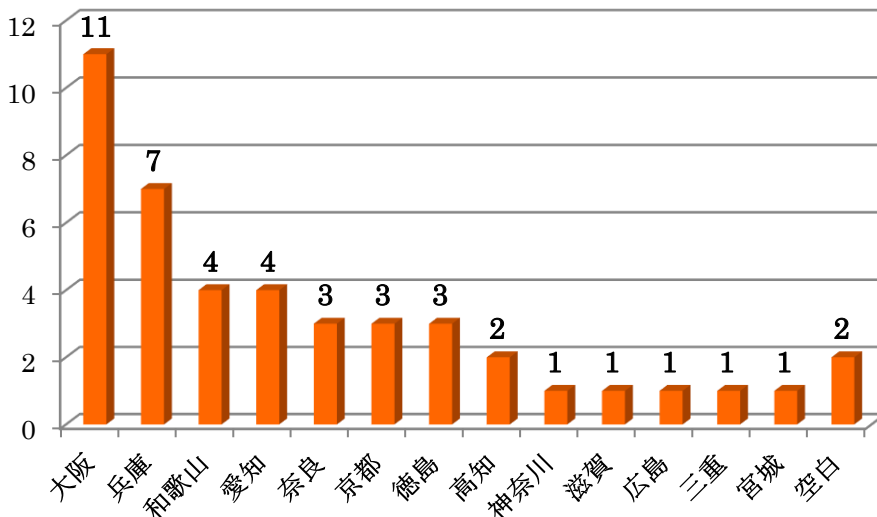
Q1. 職種・勤務先・勤務先の都道府県

(人)

(人)

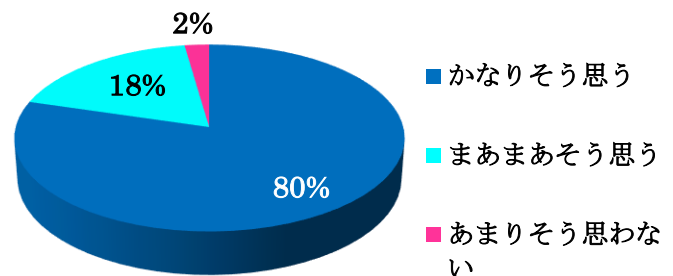


(ウ)



Q2. セミナーの内容は、口から食べる技術に関するスキルアップにつながったか。

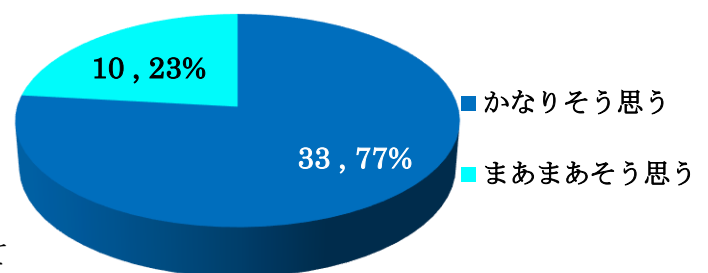
- スクリーニング方法について
- ポジショニングの重要性を感じた。
- 実際の食事介助時に、活用できると思いました。
- 明日から実践できるトピックばかりでした。
- 口腔ケアも、食べる事の一部と心得ます。
- 本で読むより、実践する方が良く理解ができたため。
- 1回では難しく、ビデオがあれば欲しいと思いました。
- 日頃の介助方法を振り返り、修正点が分かりました。
- 今までやっていた口腔ケアや食事介助の方法について、考え直すよい機会になった。
- 技術が身に付いたとは思いますが、食事ケアについての意識は変わりました。
- 食事介助のセミナーは他にないため、スキルアップに繋がったと思いました。
- 食事介助を改めて学べて良かった。スクリーニングは、小児におけるアプガースコアのような、革命的な仕事をされていると感じた。
- 実践ができていないことを、改めて実感しました。スキルアップのためには、定期的にこのようなセミナーに参加することだと思いました。
- 前回習った内容が、いつの間にかいい加減になっていたのので、復習としても技術の再獲得としても良かったと思います。



- 患者役を体験し、食事介助時に患者が体験している事柄を実体験でき、今後活用することができると感じました。
- リハビリとして、まだまだ経口を諦めないという可能性が広がりました。日常当たり前になっている、ポジショニング・食事介助を見直します。
- 今まで、食事介助は何となく(学生の頃に勉強をした程度)見よう見まねでしていた。医学的なアセスメント・環境調整などの仕方が分かり、勉強の必要性などが分かった。
- 自分で体験することで、やり難さ・やりやすさを感じる事ができた。他の人の実践をみて、違いも見ることが出来ました。
- 施設や在宅の人を、見る視点が増えたと思う。
- 普段、嚥下の評価を行っているが、食事介助を直接行っていなかったなので、勉強になりました。講師の先生には申し訳ないですが、横のグループの先生から、何度もダメ出しを受けられていて、横のグループの方が分かりやすそうだったので、少し不満が残りました。もっと、現場に沿った内容の方が分かりやすく良かった。
- 食べ物の形態によって、スプーンの口に入れる角度や入れ方を見直していきたいと思う。
- 患者役をすることで、楽に食べられる食事介助や口腔ケアを理解することが出来ました。手際よくすることが、利用者に負担を掛けないことに繋がること分かりました。誤嚥のリスクのある方に対しては、とても慎重になって、ついゆっくりになっていました。
- 自分が食事をする時のことをイメージして、スプーンの操作の角度等を考えれば良いとか(ゼリーを掬う時等)、本質を考慮した上でのスキルだと学び、とても勉強になった。
- 実際に患者役をさせて頂く事で、姿勢調整の大切さを実感しました。少しタオルで補整する事で、食事がしやすくなったり、背中や腰が楽になることが分かりました。
- 普段の食事介助を見直せる良い機会になりました。一部介助等、まだまだ自分のスキルアップが必要だと思いました。現場で活かせるレベルのスキルを、身に付けたいと思います。

Q3. 今後の実践場面で活用できるか。

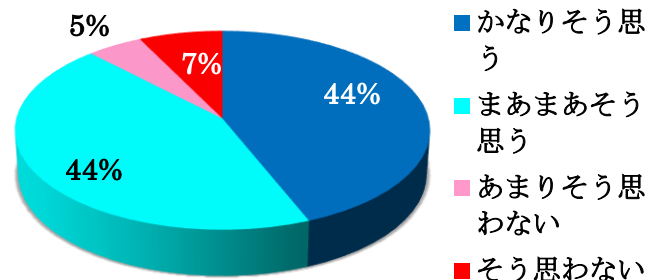
- 口腔ケア・ポジショニング・食事介助
- 嚥下障害患者に対する食事介助
- 摂食訓練場面・評価で活用できると思います。
- 車椅子のシーティング・食事介助方法
- 筋力低下の方が多いため、ポジショニングは活用できると思います。
- 実際患者に触れ合っていないですが、患者役を通してどういう気持ちで介助をすればよいか分かりました
- 急性期からの摂食嚥下機能獲得に向けて活用できる。
- 院内で実技研修を計画しています。今回のセミナーで、まだまだ自分の実技の習得が不十分であることを実感しました。
- 認知症治療病棟に勤務をしています。食べない患者に対し、認知症末期だから仕方ないと思うのではなく、五感をフルに使ってもらって、体の奥底に潜む「食べる喜び」「人間は食べて当たり前」を、思い出させてもらう援助をしたいと思いました。
- リハビリとして、看護師・ケアワーカーに伝達を行う。スプーン操作・ポジショニング・目線。



- 誤嚥をするから安易に絶食という指示に、おかしいなあと思いながらも、アプローチの仕方などもよく分からなかったが、何で誤嚥をするのかということをもとに考えていこうと思った。周りにも広げていけると思った。
- 食事介助をするのは、ケアワーカー・看護師・家族ですが、一緒に同席をすることで、評価や助言ができると思いました。
- デイサービスや家族への指導に、役立つと思った。
- 一部介助を初めて実施させてもらい、実践してみようと思います。自分がやってみて、食器を持ってもらうというのは、食べる気持ちを引き起こすことがよく分かりました。
- PT から、車椅子のタオルの入れ方を教えて頂いたので、活用をしたいです。舌の上に置く場所など、分かりやすかった。
- 回復期の病院に勤務をしているのですが、患者の入院から退院するまでのあらゆる場面で活用できます。特に、摂食嚥下のスクリーニングの方法は、基礎を忠実に施行できるようになりました。
- 認知症末期などで、寝たきりになった方の口腔ケアでの活用。口をなかなか開けてもらえない方の、開口誘導。
- ポジショニング 1 つでも、背抜きの方法等が少し違う部分があった。視線の確認、姿勢もしっかり家族へ指導を行っていこうと思った。
- 施設で食事の姿勢調整が難しい方がいらっしゃり、物品も少ないですが、タオルなど身近な物で楽な姿勢が取れることが分かりました。
- セラピストが食事に関わることには限界がありますが、姿勢の調整などから関わっていければと思います。
- 私は歯科衛生士として、現在ベッド上で口腔ケアを行う事もありますが、知識がなく、今までは患者がベッドで寝ている状態に少し頭を上げる程度でケアを行っていました。今後は、教えて頂いたことを実践し、患者にとって快適な状態で口腔ケアを行っていければと思います。
- 口腔ケアは看護師にきっちりしてもらいなど、多職種と協働して行うことで活用できると思いました。私自身が評価をし、患者の治療計画を立て、ポジショニングや介助方法を毎日・毎回継続していくには、多職種の力が必要なので、理解を得ることが必要であると再確認しました。
- 車椅子の患者で食事を摂るのに、腰が痛くて長く座れない方がいます。今日はタオルやバスタオルを使い、座り心地よく食事が摂れ、サイドテーブルと肘を支持することで、スムーズに摂れることが分かりました。すぐに実践したいと思います。
- 利用者の目の前で介助しない・遮らない・利用者主体・安楽なポジショニング・ベッド上での介助が参考になった。

Q4. 本日の実技セミナーのような研修会を、自ら企画して行いたいと思うか。

- 自分のレベルが高められたら、広げていきたいです。
- 新人研修等で、企画していきたい。
- 社内向け研修。
- まだ、自分自身の知識が足りないと思うため。
- 食事介助・自己摂取に向けてのスプーン介助。
- 病棟のスタッフを対象に、研修を行ってみたいです。
- リハだけでなく、多職種との介入がないと出来ない。



ばならないため。

- 「ベッドサイドで行うスクリーニングの実際」の研修を行おうと思います。「食事介助の実際」研修を行うにあたり、大変勉強になりました。ありがとうございます。今後も、セミナーに参加をしたいと思います。
- 介護職員向けに、食事介助の基本的内容ができればと思いました。
- 伝達講習後、院内で KT チャートの活用をして、データを取ろうと思っています。
- 病院の方針上、できないのが残念です。食事介助の際、他のスタッフに適宜アドバイスをし、徐々に広めたいと思います。
- ポジショニングが経口摂取にとっても大切だと学んだので、体験してもらおう場を設けられるといいなと感じました。
- 積極的に学ぼうとする職員が少ない。今までに何度か研修報告会をしてきたが、聞き流され実践まで繋がっていないから。
- ポジショニング 1 つで食べやすい姿勢になり、それが身近な物でできることを、経口摂取維持の取り組みをしている多職種と共有し、チームでスキルアップできたらと思います。
- 「口から食べる」ことを当たり前につまみ食い、食事を諦めないことをもっと世に浸透させたいと思ったので、特に地域等でもあれば良いと思った。
- 口から食べることは、誰にでも共通の楽しみの 1 つだと思います。また、患者と家族の絆を深めたり、本当に様々な意味のある ADL の 1 つなので、その可能性を引き出せる力がたくさんになれば凄く良いと思います。
- 私自身、困った場面が多く、このセミナーがとても参考になりました。同じように困っている栄養士もいると思うので、地域の栄養士グループに企画を持ち込みたいと思います。

Q5. 「口から食べる」に関する内容で、今後の実践セミナーで取り上げてもらいたい内容。

- アセスメントの部分の講義を希望。
- 栄養に関する内容や移乗、シーティングなどについて。
- 小児の嚥下障害に対する対応。
- 先行期を中心とした、症状別の対応の仕方。
- 医療従事者以外への研修、家族もできる介助の仕方、家族への指導の仕方。
- 口から食べるのが、どうしても困難な方の、誤嚥回避のポジショニングや管理の仕方。
- 頸部聴診について、詳しく知りたかった。
- 病院向きではなく、介護施設向けの内容のものを知りたい。
(施設では、ベッド上で食べさせることはほぼないため)
- リクライニング車椅子の方で、頸部が前屈してしまう方のポジショニングや食事介助方法。
- ST なので、病棟との関係は大切にしています。「口から食べる」を実践するために、病棟や多職種を巻き込むマネジメント方法を勉強したいです。
- 事例展開やディスカッション形式。頸部聴診の方法を、具体的に教えてほしい。もう少し時間をかけて学びたいです。
- 手技に加えて、本質をレクチャーして頂けると、センスが磨かれていきそうだと思う。
- ポジショニングの方法について。

➤ 病態別の嚥下困難に対するアプローチを、教えて頂きたいです。

Q6. KTSM 実技認定審査の受験を希望するか。

希望する	11人
希望しない	16人
無回答	17人



参加頂いた皆様、神戸医師会看護専門学校、フードケア・ラックヘルスケア株式会社・大塚製薬等、ご協力を頂いた皆様ありがとうございました。